

一般演題 プログラム

6月16日(土)

セッション1

10:05-11:05

発表8分, 質疑4分

座長 鶴見大学歯学部歯科麻酔学教室 野口いづみ

1-1. 登山をシュミレーションした上り坂および下り坂歩行時の筋活動水準

～傾斜, 速度, および担荷重量との関連から～

前大純朗(鹿屋体育大学) ほか

1-2. 安全な下山技術の確立に向けて

3. 加速度計を使用した等速度運動の検証

栢田夕香(岐阜大学大学院地域科学研究科地域政策専攻自然環境領域) ほか

1-3. 富士山頂における歩行バランスの評価

井出里香(東京都立大塚病院) ほか

1-4. 山での登高速度を指標とした登山者の体力評価法に関する研究

—「六甲タイムトライアル」を対象とした検討—

宮崎喜美乃(鹿屋体育大学体学院) ほか

1-5. 登山に対する電気伝導率を利用した疲労評価

内藤裕二郎(電気通信大学電気通信学部量子・物質工学科

物質・生命情報工学コース) ほか

6月16日(土)
セッション2

15:10-16:10
発表8分, 質疑4分

座長 榊原記念病院 高山守正

2-1. 山岳に於ける航空医療搬送の事故例の検討

吉田泰行(千葉徳洲会病院)ほか

2-2. 蝶ヶ岳ボランティア診療所 10年間活動報告

—運動器の症状による利用者に関する検討—

藤堂庫治(明和病院)ほか

2-3. 昭和大学北岳診療所における2011年度受診者統計の検討

牧角忠祐(昭和大学北岳診療部)ほか

2-4. 山岳外傷学の検討

上條剛志(相澤病院 救急救命センター・救護災害医療センター)

2-5. 日本大学医学部徳沢診療所の薬品および医療材料の管理、発注について

関谷万里子(日本大学医学部山岳部)ほか

6月16日(土)
セッション3

16:15-17:00
発表8分, 質疑4分

座長 財団法人神奈川県予防医学協会 堀井昌子

- 3-1. 富士山頂短期滞在時の安静および運動時の脳血流動態
岡崎和伸 (大阪市立大学 都市健康・スポーツ研究センター) ほか

- 3-2. 60歳以上の登山者における奥穂高岳登山での心血管系発症リスク
加藤義弘 (岐阜医療科学大学保健科学部臨床検査学科) ほか

- 3-3. 北岳と平地におけるホルター心電計を用いた自律神経活動の比較
国井綾 (昭和大学医学部北岳診療部) ほか

6月16日(土)
セッション4

17:05-18:20
発表8分, 質疑4分

座長 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院 小林俊夫

4-1. チベット3地域の高齢者の包括的な健康状態の比較

奥宮清人(総合地球環境学研究所)ほか

4-2. シェルパ族の高地適応メカニズムにおけるEPAS1遺伝子の関与

木野田文也(信州大学医学部内科第一講座)ほか

4-3. 高地肺水腫の分子遺伝子学的検討

小林信光(信州大学医学部内科第一講座)ほか

4-4. 急性高山病にかかりやすい登山者の安静時および運動時の生理的特徴

森寿仁(鹿屋体育大学大学院)ほか

4-5. 一見健康そうに見えるものの、検診にて高所ツアーが危険と判定された6例について

原田智紀(日本登山医学会登山者検診ネットワーク実行委員会・

日本大学医学部機能形態学系生体構造医学分野)ほか

4-6. ネパールトレッキングにおける20-40代日本人女性の高所順応と健康状態.

片井みゆき(東京女子医科大学東医療センター 性差医療部/内分泌代謝内科)ほか

6月17日(日)
セッション5

10:00-11:00
発表8分, 質疑4分

座長 自由学園 夏井正明

5-1. 偶発的低体温症による心肺停止の一例
高濱充貴 (佐久市立国保浅間総合病院)

5-2. 高所における体温上昇
上小牧憲寛 (国際医療福祉大学病院)

5-3. 天候および性別が山行後の体温変化に与える影響の検討
濱田康宏 (香川大学医学部医学科) ほか

5-4. 夏季および冬季登山における主観的口渇感と水分摂取量の関連性
西村一樹 (広島工業大学地球環境学科) ほか

5-5. 日帰り登山における行動食の実態とコンディションとの関係
吉谷佳代 (江崎グリコ株式会社) ほか

6月17日(日)
セッション6

11:05-12:00
発表8分, 質疑4分

座長 東京都立大塚病院 井出里香

- 6-1. 大山夏山登山における心拍数, 血漿カテコールアミン
及び尿中カテコールアミンの変化
野瀬由佳 (安田女子大学 管理栄養学科) ほか
- 6-2. 非常用保温アルミシート着用の雪洞滞在時における心拍数, 直腸温
および尿中ストレス指標の変化
小野寺昇 (川崎医療福祉大学) ほか
- 6-3. 運動誘発性喘息の既往歴を有する者の夏季の低山登山活動時における
呼吸機能指標の変化
高木祐介 (川崎医療福祉大学大学院・日本学術振興会特別研究員) ほか
- 6-4. 奥穂高登山者の登山前後の精神面の影響—POMS を用いて—
大平幸子 (岐阜大学医学部看護学科) ほか